

**製品名: NDUFA1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21237**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:300,IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW::Observed MW:8kD

**抗原情報**

遺伝子名	NDUFA1
別名	NDUFA1;NADH dehydrogenase [ubiquinone] 1 alpha subcomplex subunit 1 ;Complex I-MWFE;CI-MWFE;NADH-ubiquinone oxidoreductase MWFE subunit;
遺伝子 ID	4694.0
SwissProt ID	O15239
免疫原	ヒト NDUFA1 の合成ペプチド

**背景**

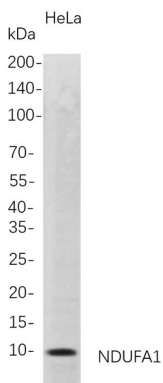
細胞局在: ミトコンドリア内膜; 膜貫通タンパク質; マトリックス側。ヒト NDUFA1 遺伝子は、呼吸鎖複合体 I の必須構成要素であ

り、NADH からユビキノンの電子伝達を担う。N 末端疎水性ドメインは、ミトコンドリア内膜を横断する  $\alpha$ ヘリックスに折り畳まれる可能性があり、C 末端親水性ドメインは複合体 I の球状サブユニットと相互作用することが指摘されている。高度に保存された 2 つのドメイン構造は、この特徴がタンパク質機能に重要であり、ミトコンドリア内膜における NADH: ユビキノン酸化還元酵素複合体のアンカーとして機能する可能性を示唆している。しかしながら、NDUFA1 ペプチドは、複合体 I のプロトン輸送に関する「疎水性タンパク質」(HP) 画分の約 31 の構成要素の 1 つである。したがって、NDUFA1 ペプチドは、その機能にも関与している可能性がある。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



HeLa 細胞全細胞ライセートのウェスタンブロット解析では、4~20% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを抗 NDUFA1 ウサギモノクローナル抗体でプロットングした。抗体の検出には、HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。